

令和 7 年 度

事業報告書に係る附属明細書

学校法人 関西医科大学

附属病院概況

(令和8年5月1日現在)

病院長 松田公志
事務部長 藤原宏司

教職員数		合計 2,044名		別掲	
教員	403名	医療技術職員	359名	臨時職員	366名
専攻医、医員	89名	看護職員	1,066名	非常勤嘱託	7名
(小計	492名)	看護助手	17名	非常勤講師	83名
		事務職員	110名	(小計	456名)
		技術職員ほか	0名		
		(小計	1,552名)		

診療科目	血液腫瘍内科、呼吸器・感染症内科、リウマチ・膠原病科、循環器内科、腎臓内科、内分泌内科、糖尿病科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器腫瘍内科、心療内科、総合診療科、脳神経内科、精神神経科、小児科、上部消化管外科、下部消化管外科、肝臓外科、胆膵外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、脳血管外科、脳血管内治療科、小児脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、皮膚科、腎泌尿器外科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、画像診断科、核医学科、放射線治療科、血管造影IVR科、産科、婦人科、婦人科内視鏡外科、麻酔科、救急医学科、病理診断科、スポーツ医学科、健康科学科、臨床腫瘍科、臨床検査医学科、新薬開発科、歯科・口腔外科	診療科数
		52科

附置センター	臨床検査医学センター、総合周産期母子医療センター、高度救命救急センター、がんセンター、緩和ケアセンター、総合リハビリテーションセンター、スポーツ医学センター、健康科学センター、内視鏡センター、生殖医療センター、臨床遺伝センター、国際がん新薬開発センター、歯科・口腔外科・口腔ケアセンター、ハートセンター、脳卒中センター、小児医療センター、腎センター、アレルギーセンター、難病センター、痛みセンター、糖尿病センター、認知症予防センター、光免疫療法センター、ロボット手術推進センター、脳卒中・脊髄・神経モニタリングセンター
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

病床	一般 797床	精神 0床	合計	797床
----	---------	-------	----	------

患者数	区分	入院		外来		救急患者数 (年間)名
		年間 (延数)名	1日平均 名	年間 (延数)名	1日平均 名	
	令和5年度	274,347	749.6	586,608	2,172.6	4,723
	令和6年度	285,726	782.8	586,573	2,172.5	4,816
	令和7年度	286,807	785.8	584,434	2,180.7	4,489
手術件数		13,090件		分娩件数	832件	

当院の特徴 最先端の医療機器を駆使した高度医療を提供する特定機能病院で、大阪府北河内2次医療圏における基幹病院として確固たる地位を築いており、臓器別診療体制や診療のセンター化構想により、大学病院としての社会的責務を果たしている。令和7年度は、附属病院群(本院、分院)を統合する形で電子カルテの更新を実施した。

当院の方針 「慈仁を心の鏡とした、安全であたたかい医療の提供」を基本理念とし、医療の安全を最優先に、医療人としての責任と自覚を持ってチーム医療を行い、高度先進医療を提供する。

総合医療センター概況

(令和8年5月1日現在)

病院長 杉山 隆
事務部長 川江 寛信

教職員数		合計 1,131名		別掲	
教員	214名	医療技術職員	212名	臨時職員	155名
専攻医、医員	22名	看護職員	615名	非常勤嘱託	4名
(小計 236名)		看護助手	0名	非常勤講師	3名
		事務職員	60名	(小計 162名)	
		技術職員ほか	8名		
		(小計 895名)			

診療科目	血液腫瘍内科、リウマチ膠原病内科、呼吸器アレルギー内科、呼吸器腫瘍内科、総合診療科、循環器内科、腎臓内科、内分泌代謝内科、健康科学科、消化器肝臓内科、脳神経内科、精神神経科、小児科、			診療科数
	上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、乳腺外科、血管外科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、皮膚科、腎泌尿器外科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、歯科・口腔外科、放射線科、産婦人科、麻酔科、ペインクリニック・緩和医療科、臨床検査医学科、病理診断科、救急医学科、リハビリテーション科			
附置センター	がん治療・緩和ケアセンター、ゲノム解析センター、救命救急センター、血栓止血センター、神経難病センター、肝臓病センター、精神疾患・身体合併症センター、こころと育ちの支援センター、糖尿病センター、プレストセンター、血管内治療センター、心臓血管病センター、不整脈治療センター、ヘルニア・機能改善外科センター、胆膵疾患センター、脳卒中センター、網膜硝子体センター、アレルギーセンター、リハビリテーションセンター、デイケアセンター、化学療法センター、健康科学センター、透析センター、内視鏡センター、ロボット支援手術センター、予防医療センター、臨床工学センター、患者支援センター 他			
病床	一般 438床	精神 39床	合計	477床

患者数	年度	入院		外来		救急患者数 (年間)名
		年間 (延数)名	1日平均 名	年間 (延数)名	1日平均 名	
	令和5年度	151,885	415.0	327,020	1,211.2	4,795
	令和6年度	154,941	424.5	319,294	1,182.6	4,700
	令和7年度	153,410	420.3	309,764	1,155.8	5,101
手術件数		7,297 件		分娩件数	161 件	

当院の特徴	当院は、専門的なチーム医療を実践するため、がん治療・緩和ケアセンター、救命救急センター、心臓血管病センター、ロボット支援手術センターなど41のセンターを有し、最新かつ質の高い医療を提供するとともに、地域医療支援病院として、近隣医療機関を対象とした医療機器等の共同利用及び医療従事者への教育を推進するなど地域医療の更なる発展に努めている。
当院の方針	患者の権利を尊重し、安全に配慮した高度な医療の提供と「断らない救急医療」を実践することにより、地域医療に貢献するとともに大学附属の医育機関として、人間性豊かな医療人を養成する。

香里病院概況

(令和8年5月1日現在)

病院長 岡崎 和一
事務部長 杉上 弘之

教職員数		合計 340名		別掲	
教員	55名	医療技術職員	67名	臨時職員	102名
専修医、医員	6名	看護職員	184名	非常勤嘱託	0名
(小計 61名)		看護助手	0名	非常勤講師	0名
		事務職員	28名	(小計 102名)	
		技術職員ほか	0名		
		(小計 279名)			

診療科目	内科、総合診療科、脳神経内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、放射線科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、精神科、病理診断科、歯科・口腔外科			診療数
				19科
附置センター	腎臓病センター、乳腺センター、骨粗鬆症センター、医用工学センター、アレルギーセンター、化学療法センター、糖尿病センター、予防医療センター、内視鏡センター、ERセンター			
病床	一般 199床	精神 0床	合計	199床

患者数	区分	入院		外来		救急患者数 (年間)名
		年間 (延数)名	1日平均 名	年間 (延数)名	1日平均 名	
	令和5年度	61,032	166.8	186,923	692.3	872
	令和6年度	62,118	170.2	183,739	680.5	1,259
	令和7年度	60,610	166.1	175,304	654.1	1,215
手術件数		2,719件		分娩件数	0件	

当院の特徴	平成22年7月1日に開院。外来維持透析を中心とした腎臓病センターや乳腺センター、粗鬆症センター、アレルギーセンター、化学療法センター、糖尿病センター、予防医療センター、内視鏡センター、ERセンターを併設する。令和4年1月から二次救急告示病院（非通年制）としてER体制をスタートした。令和6年6月には日本医療機能評価機構認定病院となり、9月には一部の病棟を「地域包括医療病棟」に転換し、急性期の機能を維持するとともに、介護福祉部門も充実させ、寝屋川市の市民病院的役割を担う地域密着型の病院を目指している。
当院の方針	地域に開かれた大学病院の役割として、地域医療機関との関わりを強化し、本学附属病院との連携を深め、高い専門性に裏付けられた医療情報と医療技術を広く地域に提供していくことを目指している。

くずは病院概況

(令和8年5月1日現在)

病院長 高山 康夫
事務部長 北口 宏

教職員数		合計 241 名		別 掲	
教 員	13 名	医療技術職員	92 名	臨時職員	97 名
専修医、医員	0 名	看護職員	70 名	非常勤嘱託	0 名
非常勤教員	3 名	看護助手	13 名	非常勤講師	0 名
(小計 16 名)		事務職員	49 名	(小計 97 名)	
		技術職員ほか	1 名		
		(小計 225 名)			

診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、外科、整形外科、皮膚科、	診療科数
	脳神経外科、腎泌尿器外科、リハビリテーション科、放射線科	
附置センター	リハビリテーションセンター、ケアプランセンター	
病 床	地域包括医療 50 床、回復期リハ 44 床	合 計 94 床

患者数	区 分	入 院		外 来		救急患者数 (年間) 名
		年 間 (延数) 名	1 日平均 名	年 間 (延数) 名	1 日平均 名	
	令和 5 年度	31,356	85.7	49,091	167.5	487
	令和 6 年度	30,962	84.8	53,740	183.4	641
	令和 7 年度	31,874	87.3	55,463	189.9	629
手術件数		933 件		分娩件数	0 件	

当院の特徴	整形外科と内科、およびリハビリテーション科に特化した病院です。高度先進医療を提供する附属病院と連携し、さらに訪問看護ステーションやデイケアとのシームレスな連携が急性期医療を終えた患者さんの社会・在宅復帰を総合的にサポートします。
当院の方針	これからの超高齢化社会に対応できる地域密着型病院として、健康寿命延伸に向けた取り組みを推進していきます。骨折などの整形外科症例を中心に、救急搬送も多く受け入れていきます。運動機能低下改善に向けて整形外科領域の充実とリハビリテーションの強化を図り、同時に予防医療とも連携し生活習慣病の改善にも取り組みます。

天満橋総合クリニック概況

(令和8年5月1日現在)

院長 大宮 美香
事務長 岡崎 由紀夫

教職員数		合計 43 名		別掲	
教員	3名	医療技術職員	8名	臨時職員	37名
専修医、医員	3名	看護職員	7名	非常勤嘱託	3名
		看護助手	0名	非常勤講師	0名
(小計 6名)		事務職員	22名	(小計 40名)	
		技術職員ほか	0名		
		(小計 37名)			

診療科目	総合健診センター（人間ドック、成人病検診、各種健診）			診療数
	総合外来（内科、眼科、皮膚科、乳腺外科）			
				4科
附置センター				
病床			合計	

患者数	区分	健診		外来		救急患者数 (年間)名
		年間 (延数)名	1日平均 名	年間 (延数)名	1日平均 名	
	令和5年度	27,022	94	21,620	90	
	令和6年度	26,370	93	23,185	97	
	令和7年度	26,813	94	22,456	94	
手術件数				分娩件数		

当院の特徴	当クリニックは、内科、眼科、皮膚科、乳腺外科からなる外来部門と、総合健診センターとで構成されています。総合健診センターは日本総合健診医学会の優良総合健診施設認定を受けています。外来部門では昼診療を導入するなどして、かかりやすいクリニックになるように取り組んでいます。
当院の方針	予防医療分野において長い歴史をもつ健診センターとして、変化する受診者のニーズに敏感に対応できる施設であることを目指す。近隣住民にとってかかりやすく、健診で異常を指摘された受診者に対してスムーズに医療を提供できる外来クリニックを目指す。

くずは駅中健康・健診センター概況

(令和8年5月1日現在)

センター長 浦上 昌也
事務長 富田 典幸

教職員数		合計 6名		別掲	
教員	1名	医療技術職員	1名	臨時職員	17名
専攻医、医員	0名	看護職員	1名	非常勤嘱託	1名
		看護助手	0名	非常勤講師	0名
	(小計 1名)	事務職員	2名		(小計 18名)
		技術職員ほか	1名		
			(小計 5名)		

診療科目	健診科 (人間ドック、生活習慣病健診、事業者健診、特定検診、枚方市がん検診等)	診療数
	運動療法科 (メディカル・フィットネス)	
		2科
附置センター		
病床		合計

患者数	年度	人間ドック・健診		メディカル・フィットネス(会員数)		救急患者数 (年間)名
		年間 (延数)名	1日平均 名	年間 (延数)名	1月平均 名	
	令和5年度	1,760	7	432	36	
	令和6年度	2,696	10	821	68	
	令和7年度	3,473	13	995	83	
	手術件数			分娩件数		

当院の特徴 人間ドック健診とメディカルフィットネスを行う新たな予防医療施設として、2022年11月に開設された。健診科は、最新の医療技術を導入して、個々の健康リスクに応じて個別化された人間ドック健診を行っている。運動療法科 (メディカルフィットネス部門) は、健康増進の為のみならず、現在治療中の病気の重症化予防にも取り組んでいる。

当院の方針 関西医科大学の予防医療の一角を担う施設として、関西医科大学の各附属病院と緊密な連携を取りながら事業を行う。大学病院の施設に相応しい予防医療の質を維持する。新しい医療技術を積極的に活用する。予防医療に関わる、教育や研修が行える施設を目指す。